

2022 年度豊岡市地域福祉計画前期推進委員会 会議録要旨

注) 会議録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。
発言内容をもとに一部表現（文言）を変えて表記している箇所があります。

○日 時 2023 年 3 月 24 日（金） 14:30～16:00

○場 所 豊岡健康福祉センター 3 階 第 2 会議室

○出席者 出席委員 11 名 欠席委員 6 名

○推進委員会会議要旨

1 開会

2 あいさつ

土生田副市長

3 自己紹介

4 委員長及び副委員長の選出について

要綱第 6 条に基づき委員の互選により以下のとおり選出

委員長 西池 匡 副委員長 太田垣 健作

5 報告事項（事務局から報告）

(1) 令和 3 年度策定豊岡市地域福祉計画前期推進委員会について 資料 1

(2) 豊岡市地域福祉計画について 資料 2

6 協議事項

豊岡市地域福祉計画の取組状況について 資料 3

事務局から資料 3 をもとに説明

委員長

地元での活動の様子を踏まえた意見や説明を聞かれての意見等をお願いしたい。

B 委員

日高地区でも関わりが希薄になっている。独居で老人会も参加されず関わりを望まれない方がいる。近所にいながらも顔を見ない。会議等でも話があがっている。身近な人が安心安全に過ごしていくために取組を進める必要がある。

委員長

活動の中心が 70 代。次世代に継承できるかが課題。

E 委員

普段は地域コミュニティ組織をサポートしている。全但バスの乗り方動画を社協が出されて普段の支援で活用している。バスに乗ったことがない方は怖くて乗れないという意見もあり、動画を見することで、少し乗りやすくなった部分もあると思う。素晴らしい取組であると思う。

なお、一点お聞きしたい。2022 年度の取組状況一覧で横線が入っている部分がある。出来なかった部分の理由は。

事務局

社会福祉法においても重層的支援体制整備事業を新たに設けて地域共生社会の実現、包括的な支援体制の整備を目指している。豊岡市地域福祉計画においても、国の動向を踏まえて計画策定を行ったが、現在は検討段階にあり、新たな取組としては実施していない状況のため取組状況には記載していない。なお、記載していないので全くできていないわけではなく、相談機関では取組みを進めている。

委員長

高齢者分野、障害福祉分野、児童分野とそれぞれ計画はあるが、語り合う機会は少ないと思う。各分野がどのような状況にあるのかを把握していくことも地域福祉計画では大切な事だと思う。障害者分野ではどうか。

H 委員

障害者福祉の分野でも高齢化が進んでいる。計画は立てたが、新たな問題がでている。実施状況の把握だけではなく、新たな課題についても次の計画に向けて出していくほうがよいと思う。なお、計画の委員会に出ても、地域福祉計画で実施しているというような回答であるが、実際は各計画相互の関係が希薄であると思う。それぞれの計画間の情報共有が重要だと思う。

A 委員

地域福祉計画は包括的な支援体制をつくることを目的としている。地域の皆さんの力を高めていくという部分と専門職の相談支援体制が 2 本の柱だと思う。

よくできている計画だと思うので、これを着実に進めていくことが豊岡市の包括的支援体制を進めていく上で重要である。そこを踏まえた上で気付いた点を発言する。

1 つ目は、今年度から市と社協の職員による地域福祉計画推進部会で相談支援体制について議論が進められている。複合多問題や制度のはざまの課題は分野を超えて解決していかなければならないので、話し合いの場をつくり、分野横断的に庁内や他機関との連携を図ってほしい。

他市では、各計画の委員長が集まる会議をしており、それぞれの 1 年間の進捗報告をしている。

管理報告だけではなく共通点は何か、そして、それぞれの計画で重点的にやっていける事等を話し合っていて進めている。分野を横断して捉えていくことが重要だと思う。

2つ目は、地域の皆さんの主体的な活動ということだが、地域の人材が不足している中で、この課題はこれからも続いていく。人口減少社会なのでさらに深刻になる。最近言われていることは取り組む人たちを広く拡大していくこと。民生委員や自治会の皆さんには色々なことをしてもらっているが、それだけではなくて、商売や農業をしている人に本業の中で何か福祉に参加してもらうこと、のりしろを出してもらうことで地域福祉活動を一緒にやってもらう発想が大切である。

最後に、国では重層的支援体制整備事業を進めており、豊岡市でも活用を考えていただきたい。

豊岡市地域福祉計画の取組状況について **資料4**

(事務局より資料4を用いて説明、動画視聴)

G委員

見守り個配サービス事業に社協と取組んだ理由は、社協が行われたヒアリング調査の結果からである。高齢者、障害者ともに買い物や移動に困られているという状況がある中で何かできることはないかと豊岡市社協とコープこうべで協定を結んだ。宅配事業という形で、宅配により自宅に届ける形となる。

コープでは、1時間12軒、1軒あたり5分と配達が中心で見守りにはなっていない。見守りという点を地域や障害者団体に担ってもらっている。1軒あたり200円が収入となり、現在は出石・但東ともに2件ずつと聞いている。これからも社協とともに活動を進めたいが、色々な方の力が必要だと思う。

また、毎週水曜日にコープデイズ豊岡でつながるマルシェを実施している。

H委員

つながるマルシェは毎週コープデイズ豊岡をお借りして取り組んでいる。

見守り個配サービス事業は、但東地域のすみれで実施しているが、役割分担しながら進めている。また、但東地域の地形は谷が深いので、その点も課題だと思っている。地域とのつながりが大切である。利用者が役割ができ、すごくうれしそうにしている。障害者も地域の中で生活しているので、役割があることは素晴らしいことだと思う。

I委員

ドーナツの会もつながるマルシェを楽しみに活動している。

地域の交流活動等において若者の力をなんとか引き出せないかと思っている。地域活動にいかにか若者を巻き込むかという視点が大切だと思う。サロン活動や玄さん体操にしても高齢者の活動になってしまっているということが大きな課題だと思う。若者や子育て中のお母さん等に声かけしたり、子どもにも声かけしたり、障害のある方が参加したりと色々な人を巻き込む地域づくりでないといけないと思う。地域全体で我が事として動ける地域になっていくことが大切だと思う。

ドーナツの会で実施している子ども食堂については、貧困対象ではなく地域住民の交流拠点と考

えている。ひきこもりや不登校の人たちは人との関わりが苦手な中で、地域とふれあう場として取り組みたいというのが活動の根拠であった。円テーブルで当事者や地域住民の方、子連れの方等が座って話をしている、この姿が目指す社会だと思っている。

孤立させないというのが大切だと思うので、見守り個配サービス等のように困った時は助けてと言える社会が大切だと思う。

委員長

孤立しない社会、地域づくりが大切だと思う。市や社協など支える側も一体となって進めていくことが大切だと思う。

A委員

「見守り個配サービス事業」については素晴らしいと思って、動画を拝見した。各企業・団体ものりしろを出してもらうことで、新たな取組ができるということもあると思う。生活協同組合コープこうべだけではなく、色々な企業・団体等に協力してもらうことが今後の地域づくりを進めていく上で大切だと思う。

これまでは障害、高齢、児童と分野ごとに考える習慣があり、分野ごとに取組を進めていたが、ごちゃまぜの力を使って、色々な方々が同じ場に参加することがお互いの気づきや力になり、共生社会へとつながっていくと思う。地域共生社会という言葉があるが、地域の中で色々な人が役割をもち、「支える」「支えられる」という形に分かれることなく、取組を進めていくことが大切だと思う。

F委員

動画等を見せてもらったが、このような取組があることを知らなかった。このような情報は民生委員の会議等でも啓発してもらえばと思う。知らなければ伝えることができないのでお願いしたい。もう少し上手に民生委員と連携すればよいと思う。

民生委員・児童委員、民生・児童協力委員、福祉委員の連携強化と書いてあるが、現実的には強化はまだできていないと思う。横のつながりはまだまだできていないのが実態だと思う。

そして、民生委員の役割を地域の人が理解されていない。民生委員自体の活動啓発をもっと行ってほしいと思う。また、民生委員のなり手がいないという課題についても解決に向けて検討してほしい。

委員長

意見にあったように民生委員が集まる機会等で社協等の活動啓発を行ってください。

H委員

つながるマルシェは、コープデイズ豊岡だけではなく、豊岡市役所でも実施しているので付け加えさせていただく。

また、出石では民生委員の会議の時に、コーヒー喫茶を障害者団体が実施している。このように

障害者等が活動に参加する工夫をどのようにしていくかが大切で、そのためにはまず情報発信をしていくことが大切であると思う。

A委員が言われたように、計画委員長や団体の長が集まるような機会で協議したり、情報発信するような取組みを行うことが大切であり、これが地域福祉だと思う。

豊岡市では虐待等の際に避難するシェルターのような施設が無い。実際に法人でもこれまで3名が家に帰れなくなった事案がある。シェルターが無いので、行く所がない。ビジネスホテルも宿泊客で埋まっている場合もある。計画の中には入っていないが、この件は障害者だけではなく、DVだとかもあるので、今後の対策を考えていく必要があると思う。

委員長

まだ議論できていないところもあると思うが、時間的な制約もあるため以上としたい。ただ、委員も声をかけてもらえれば寄る事是可以ので、気軽に声をかけてほしい。積極的に推進委員会を開催してもらえればと思う。

7 その他

事務局

次回の委員会については、2024年の2月頃を予定している。

8 閉会

委員長